

柿は渋きより甘きに入り
人は甘きより渋きに入る

今が旬の柿を食べると、ふ
と思ひ出すこの言葉は、人生
の警句を数多く残した斎藤緑
雨氏の言葉です。

渋柿は熟すと甘くなります
が、人間は年月を経ると渋み
が出てきます。面白い対比で
すが、わが身を振り返ればま
だまだ甘さが目立ちます…。
人はなかなか熟さないものと
いう皮肉が込められているの
かもしれません。

また、同じ斎藤でも、斎藤
茂太氏はその著書に「常に高
い目標ばかりを掲げていては、
いつまでたっても悩みは尽き
ない。80%でよしとする勇気
を持つとう。残りの20%は次へ
のバネとしてとっておけばい
いのだ」と記しています。
さて、90歳で亡くなった斎
藤茂太氏は銀婚式の際、奥さ
んに次のような「表彰状」を
渡しています。

「あなたは二十五年の長き
にわたり、時にやさしく、時
にはアシユラの如き夫に仕え、
また甚だ個性の強い家族たち



いつまでも
夫婦仲むつまじく

とナカナカうまくやり…」
表だって感謝は言いにくい
と考えついた妙案です。あり
がたいやら恥ずかしいやらで
奥さんは困ったそうですが、
後に「最も我慢強い夫へ」と
英語で刻んだ小さなトロフィ
ーを贈ったそうです。

「相手をほめると自分も元
気になる」と夫婦のあり方に
触れた『いい言葉は、いい人
生をつくる』などの多くのエ
ッセーは、豊かな人生体験や
ユーモアに富んでいます。家
族や自分を振り返り、「いい人
生」の助言をたくさん残した
斎藤茂太氏は、精神科医でエ
ッセイスト。というよりは人
生の達人です。

指宿市長 豊留悦男